



小牧山

戦国に馳せる

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課

副主幹 松下 浩

第18回 信長の城

尾張時代の城／清須・小牧

信長は天文23年（1554年）守護代織田彦五郎を追放して清須に入城します。清須は尾張国の守護所で、尾張支配の中心地でした。清須入城によって信長は尾張支配者としての地位をアピールしたのです。

当時の清須は、方形居館の周囲に武家屋敷や町場、市場などが広がっていました。天守などはなく、城郭としての構造は未熟なものでした。

その後永禄6年（1563年）小牧へと居城を移します。従来、小牧山城については美濃攻略のための臨時の城と考えられていましたが、最近の発掘で、発達した城郭部分と、整然と都市計画がなされた城下町が確認され、清須にかわる新しい尾張支配の拠点としてつくられた城であることが明



▲小牧山城石垣

らかとなりました。

小牧山城は標高86mの小牧山に築かれた城で山頂部の城郭部分と山麓部の居館部分とで構成されています。山頂の城郭部分には石垣が使用されており、岐阜城、安土城に先行する信長系城郭への石垣の使用例として注目されています。城下町には整然とした町割が施され、細かく地割が施された町屋部分と、大きな地割が見られる武家屋敷部分とに分かれていたようです。

岐阜城／天下布武へ

永禄10年（1567年）、美濃の戦国大名斎藤氏を降した信長はその居城稲葉山城に入城し、そこを岐阜と改名しました。またこの頃信長は有名な「天下布武」の印章を使いはじめ、岐阜城は天下布武へ向けての拠点となります。

岐阜城については、山頂部分に天守の萌芽と見られるような高層建築があったことが注目できるでしょう。また、小牧同様に城郭に石垣を使用しています。一方城の構成としては山頂の城郭と山麓の居館という中世山城の基本構成を踏襲しています。また城下町については、小牧ほど整然とした町づくりが行われていません。これは小牧が更地に新しくつくられたニュータウンだったのに

対し、岐阜が斎藤氏時代の町に規制されたためと考えられます。

安土城／天下人の城

天正4年（1576年）、信長は近江安土に城を築きます。安土城は高石垣にそびえ立つ高層の天守と、屋根を飾る金箔瓦という、それまでの城郭には見られなかった新しい姿をしています。まさに天下人の居城にふさわしく、他の戦国大名とは線を画する存在であることを居城の外観においても示しているのです。こうした安土城のスタイルが、この後近世城郭へと継承されていきます。今日我々がイメージする城の姿は、まさにこの安土城が出发点なのです。



▲安土城大手遠景

問合先 文化振興課 ☎76-1189